

新山協ニュース

▲ 発行者 平田大六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会
〒951 新潟市下旭町109 鈴木敏雄方 TEL025-222-9548

平成7年度 高等学校総合体育大会 県予選会の報告

柏崎常盤高校 西巻正典

5月31日(水)から6月2日(金)まで妙高高原町、妙高村の火打山で笹ヶ峰、富士見平、黒沢池、高谷池、火打山、高谷池コースを使って実施されました。

高体連の大会の中で定められた審査基準に従って競技形式で行われ、全国大会・北信越大会につながるのはこの大会だけです。

5月31日、久しぶりに晴。夏まで定期路線バスがないため、各チームがチャーターバス、顧問の自家用車、タクシイ等で新緑のまばゆい笹ヶ峰に到着。受付は妙高山麓国民休暇村。計画書を提出する段階から実質競技開始。開会式終了と同時にペーパーテスト、天気図作成、装備、生活と審査が続きます。

参加校、男子32校(内オーブン5校)、女子9校(内オーブン3校)で男子121名、女子32名が参加。

今日の幕営地笹ヶ峰はかるうじて雪が消えて土の上。明日のコースは登山口から雪で十二曲からはビッシリ雪がついているはず。消灯21時も厳守されて、見上げれば満天の星でした。

翌日は4時起床。4時半に先発隊(柏崎工業小杉、外山両先生と安塚の竹田先生、更に補助役員の柏崎工業生徒)がルート工作に出発。多謝。

5時半に第1班から予定通り登山開始。今日一日体力、歩行、装備、マナー等に審査委員の目が光り、山頂で折り返しての幕営地高谷池は深い雪の上。入部したばかりの一年生だけのパーティもいくつかあり、ひたすら各校の安全かつ快適な登山を祈りました。

最後尾と並んで進む救護隊(高田工業平田先生と宮川看護婦さん、更に高田工業の生徒)が大変頼もしく見えました。特に宮川看護婦に感謝。

以下詳細は略させて頂き、三日間続いた晴天に感謝し、最終日に富士見平から眺めた富士山の姿までもが大会に花を添えてくれました。

生徒への講評は審査委員長の新保先生(長岡工業)の言葉を引用させていただきます。「火打山頂ではガスられてしまいました。好天に恵まれた大会でした。コースのほとんどが雪上での行動だったためか、リタイヤーのチームが目立った大会でもありません。審査結果一覧と班別講評を合わせて、自分達のパーティの長所短所を見だし、今後の山行に大いに役立てて下さい。また、3年生にあっては後輩への指導を忘れないようにして下さい。」



三条、三条東、小千谷、糸魚川、柏崎工業
【女子】*六日町、*三条東
(*印4校は北信越出場校)
奨励校 羽茂

最後に、大会運営に際しくご協力頂きました妙高山麓国民休暇村、黒沢池ヒュッテをはじめとする外部関係者の方々に心より感謝申し上げます。大会運営に直接係わる部分よりも、表に出ない部分に至るまでお世話になりました。上越地区をはじめとする大会役員各位に深くお礼申し上げます。結果報告といたします。

審査結果

最優秀校 【男子】三条工業
【女子】新潟中央
(全国総体出場 鳥取大山)
優秀校
【男子】*六日町、*新潟、

・種別成績表

登攀競技 (R)						種別成績			
技術 得点 (20)	所要 時間 (時:分:秒)	時間 得点 (80)	減 点	得点 (100)	順 位	種目 順位 合計	種別 得点	種別 順位	備 考
6				6					
6				6					
4				4	1	4	40.0	1	
4				4	1	6	35.0	2	
4				4	2	10	25.0	4	
20	0: 2:27	80.000		100	1	4	40.0	1	○
4				4	2	9	30.0	3	
4				4	2				
4				4	2	5	35.0	2	
						9	20.0	5	
						5	35.0	2	○
						2	40.0	1	○
						6	30.0	3	
						8	25.0	4	
						9	22.5	4	
						2	40.0	1	○
						5	32.5	2	
						5	32.5	2	
						9	22.5	4	

第16回北信越国体山岳競技終わる
成年女子 登攀2位

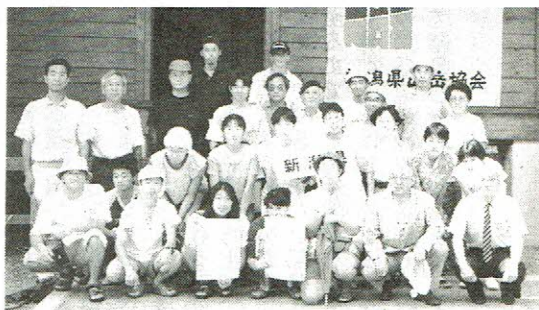
7月28日から30日にかけて富山県五箇山で開催された第16回北信越国体山岳競技に本県からは振るわず4〜5位で低迷、から成年女子、少年男子、少年女子の3チームと成年男子(オープン)が参加した。28日は受付と開会式、29日 踏査に懸ける。

30日の踏査は定点を押さえきれず少年男子5位、少年女子4位、成年女子4位となる。総合でも4位、5位で、体力不足が成績に反映した。表彰式では表彰状一枚でも全力を出し戦った満足感で一杯であった。

参加者 総勢30名
選手団 15名

成年女子 4名
少年男子 5名
少年女子 4名
成年男子 2名
審判員 3名
競技役員 3名
応援団 9名

選手団、審判員、役員、応援団の皆さんご苦労さんでした。



中高年登山は安全で楽しく有意義に

中高年安全登山 指導者講習会報告 ⑦

理事 田 辺 信 行

- 11 緊急時の対応
事例について説明があったが省略、事例から読取れることとして
- 1 日本の山でも高山病は起こる(前にならなくても、今回なるかもしれない。)
 - 2 かなりのベテランでも起こる。
 - 3 ある一定の時間をおいてから死亡する(回復する)
 - 4 初めに何等かの症状がある。浮腫みとか。
 - 5 悪くなると急速に悪化する。
 - 6 上で治療できない(極めて困難)
 - 7 専門的に見ると、脳浮腫、肺水腫の症状が出て来ているのが分かる(解剖結果両方)
 - 8 脳浮腫がひどいと回復が遅い。
 - 9 入山時のコンディション

第16回北信越国民体育大会山岳競技種目

期日 平成7年7月28日(金)～7月30日(日)

区 分		種 目 別 成 績										
種 別	県 名	縦 走 競 技 (T)					踏 査 競 技 (S)					
		特 区 間 所要時間 (時:分:秒)	時 間 得点 (100)	減 点	得 点 (100)	順 位	定 点 得点 (80)	所 要 時間 (時:分:秒)	時 間 得点 (20)	減 点	得 点 (100)	順 位
成年男子	(16)新潟	1:42:6	69.572		69.572		72	1:40:18	11.754		83.754	
	(17)長野	1:11:2	100.000		100.000	1	80	0:58:57	20.000		100.000	
	(18)富山	1:16:37	92.712		92.712	2	72	1:3:54	18.450		90.450	1
	(19)石川											
	(20)福井	1:42:6	69.572		69.572	3	72	1:26:9	13.685		85.685	2
成年女子	(16)新潟	2:30:20	59.390		59.390	5	64	1:42:20	14.977		78.977	3
	(17)長野	1:38:5	91.028		91.028	2	80	1:16:38	20.000		100.000	1
	(18)富山	1:50:43	80.641		80.641	3	56	1:17:55	19.670		75.670	4
	(19)石川	2:8:23	69.544		69.544	4						
	(20)福井	1:29:17	100.000		100.000	1	80	1:20:0	19.158		99.158	2
少年男子	(16)新潟	1:22:36	85.209		85.209	4	72	1:7:0	17.094		89.094	5
	(17)長野	1:21:20	86.536		86.536	3	80	0:59:28	19.260		99.260	2
	(18)富山	1:10:23	100.000		100.000	1	80	0:58:13	19.673		99.673	1
	(19)石川	1:13:30	95.759		95.759	2	72	0:57:16	20.000		92.000	4
	(20)福井	1:29:9	78.949		78.949	5	80	1:35:14	12.026		92.026	3
少年女子	(16)新潟	2:24:2	62.381		62.381	5	72	1:39:51	14.692		86.692	4
	(17)長野	1:29:51	100.000		100.000	1	80	1:13:21	20.000		100.000	1
	(18)富山	1:49:21	82.167		82.167	3	80	1:16:23	19.205		99.205	2
	(19)石川	1:40:13	89.655		89.655	2	80	1:18:24	18.711		98.711	3
	(20)福井	1:59:1	75.493		75.493	4	64	1:41:36	14.438		78.438	5

ンが大切である。
 対応として、順応するた
 めには①ゆっくり登る、一
 定のペース、乱さない②体
 調の悪い人がいないように
 する(事前指導が大切か)
 ③水分を積極的に摂取する。
 各人の下山の規定を作っ
 ておく和良好的、アスピリン

平成6年度指導員研修会報告
 「登山中の事故遭難の時
 リーダーの刑事 民事責任は」③

指導委員会 三 富 一 弥

山岳事故の場合は、刑事責
 任と民事責任が関わってくる、
 という事を一応考えておく必
 要があります。最低限の基礎
 知識として頭に入れておいて
 いただきたい。

暴行罪 違法な有形力の行
 使。例えば他人に「おはよう」
 と言って拳骨で軽く肩をたた
 く。これは暴行に値するが
 違法性がないので罪にならな
 い。しかし少し間違っただけ
 とか、相手が痛がるような叩
 き方の時は暴行罪になりかね
 ない。

カルネアデスの板 例えば
 舟の転覆の時2人が1枚の板
 を奪い合い、1人が自分が生
 きるために、俺が生きたいか
 らお前は諦めてくれ、と説得
 してもう一人を蹴り落として
 助かった場合違法ではないか。
 しかし人間だから自分が助か
 りたいから、しょうがないん
 じゃないか。期待可能性がな
 いから、人を助けて自分が死
 んでしまうような立派な心情
 の人間を期待することが無理
 だから、その場合責任がない。
 期待可能性がないとなる(有
 形力の行使)

山登りをやっているという
 んな場面に出会うと思います
 が、山登りの場合は注意義務
 が発生する。注意義務を尽く
 せなかった事によって、どん

を飲んでも頭痛が治らなけ
 れば下りるとか、平衡感覚
 の不調を感じる本人・メン
 バーがチェック、自己の身
 体的データによる(呼吸、
 脈とか)激しい疲労感とか
 こんなときは無理せず下る
 判断をすること。

な違法の状態が発生して、更に違法があったにしても、普通の人間であればその場合そうする事しかなかったと。

例 山の中で後1日分しか食糧が無いし、ぎりぎり節約しても1食分の食糧しかない。そこで衰弱している人を優先してやるしかないのが元氣そうに見える人に我慢してくれと言ふことでリーダーが最後の食糧を衰弱した人に与えた。ところが元氣に見えた人にもやっとなかったため、その人が急に疲労困憊して倒れて死んでしまった時に、リール

わがクラブ ⑬

こんな僕たちです

新潟高校山岳部

3年 関

哲朗

現在30余名もの部員を抱え、規模だけなら県下でも一・二を争う新潟高校山岳部。

それぞれの部員が、それぞれのポリシーを持ち、流行のサッカーやバスケットを横目に、異性には絶対モテないと思われれるスタイルで、今日は北の山、明日は南と登っています。さらに、部員は個性的。例えば、ザックにいつもカウベルを欠かさない熊恐怖症男や、

グーにその責任があるのかどうか。あれば最後の人間の判断としてやむ得ないという事になって、しょうがないという事で刑法責任が問われない事もあり得るかもしれません。そのような事は具体的な事例の基に良く考えてみないと解らない。結局法律家の理屈の話でしかないんですが。いったん形の上では外形的に有形力の行使にあたり、困って人を死傷に致したるといふ注意義務違反があつて、行政に要請が有るとか、無い場合がある。(つづく)

せて名前がついています。例えば、新人歓迎、歩荷などといったものが代表です。この他に追い出し山行と称するものがあります。これは、去り行く三年生を、一・二年生が暖かく送り出すという特別な山行です。

以上が短期の山行です。当然ながら長期遠征山行もあります。夏休み実施の夏合宿がそれです。四泊五泊で北アルプスや飯豊連峰に入ります。昨年は北海道の大雪山に行つて来ました。我が部のメインイベントです。計画段階から生徒がいつも増して自主的に動きます。入山後の長丁場を乗り切ることにより、

人間的にも一回り成長し、友情も生まれます。また、OBの参加もあり過去の面白い話が聞けたり、不足するところの技術指導もあつたりで大変に有意義な山行なのです。

他には、学年別で計画する二次夏合宿や、三月には巻機山で春合宿があります。両方も夏合宿に比べると短期です。前者は、顧問が山について行かないため、責任ある登山が求められることになりま

後者は、雪上での技術の

修得が主です。今まで述べた山行を安全に実施するための、普段の部活動の一端を紹介しましょう。登山は、体力も知識も要求されます。我々はそれらの高次元での両立が目標です。体力作りの手取り早い方は走ることに、幸い周囲に松林や、海沿いのサイクリングロードがあるため走るには事欠きません。そして、キスリングに30キロ位の負荷で歩くということも実施しています。

知識面は、天気図を作成して明日の予報を出したり、山岳図書を読んだりします。たまに、県大会で出題された問題を解いたりもします。

加えて道具の点検も重要。テント点検は、設置練習を兼ねて行います。他の部の生徒が奇異の目で見つめています。最近では全く気になりません。ラジウス点検は、たまに火遊びと化すこともあります。日々の部活動時間以外にも部室に集まってワイワイやっています。こっちの時間の方がむしろ楽しいくらい。野郎が集えば冗談も出ますが。これからの部活の方向といった

おカタイ話題もありますし、山行の思い出にひたつて、あと残った山行は何回? と指を折つてはため息をついたりもしています。この時間って重要ですね。忘れてはならないのは、こうした連中とは一生付き合つていけること。無形の財産だということ。ひとつ屋根の下、メッコの米もデロデロに伸びたラーメンも共に食べ、寒さに身を寄せたこともあつた。雨の中黙々と歩いたことも。苦楽を共にしているからホンマモンの友達ができる。新潟高校山岳部は、そんな部です。

登山用品専門店

信頼できるパートナー

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736